２月９日　　創世記６章１節～７章２４節　　【解説と黙想】

ノアの箱舟

【主の好意を得たノアの物語】

創世記６章で「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も、わたしはこれらを造ったことを後悔する」（６章７節）に続いて、則、「しかし、ノアは主の好意を得た」（８節）との使信こそ、この物語の主題と言える。

つまり、この物語の主目的は、神のさばきによる滅びにあるのではなく、ノアのその家族八人の救いにあること、それが、創造主なる神の御心であり、ここに、神の憐れみと慰めがあることを告げることにある。

洪水の背景・理由である全人類のとりわけ、「神の子たち」（１節）の堕落と、神のさばきとしての洪水の予告が告げられながら、即座に、箱舟建造と箱舟入船の命令がノアに与えられる（11～13節、14節、15～16節、17節、18節、19～21節）。ここにある、神のさばきとノアとその家族の救いと神の契約の交互の対照は、「ノアの箱舟」に込められた、「主の好意」を恵みとして受ける一つの緊張を表す。

「ノアは、すべて神が命じられたとおりにした」（22節）との創世記６章の結びの言葉こそ、主の好意を得たノアの従順を明らかにする。ノアは、100年（５章32節と７章６節比較）に及ぶ忍耐と従順において、（神の）「義」を説きつつ（ペトロ二２章５節）、「すべて」神の命じられたとおりにしたのである。

【「箱舟」に入った者たちの救い】

聖書は、「これはノアの物語である」と要約し、「その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェト生まれた」（創世記６章９，10節）と言う。さらに、洪水が地上に起こった「まさにこの日、ノアも、息子のセム、ハム、ヤフェト、ノアの妻、この三人の息子たちの嫁たちも、箱船に入った」（創世記７章13節）と、神自ら備えられ、モーセが御心を行った、“神の裁きからの救いの箱船”に、ノアとその家族が入ったことを示す。

世の報道と異なり、聖書は、大雨が降ったことを「この日、大いなる深淵の源がことごとく裂け、天の窓が開かれた」（創世記７章11節）と言い、箱舟入船の終了は、「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた」（16節）と伝える。

これは、一貫して、この出来事の主体者は、創造と摂理の神、「主」であることを明記するものである。

【主の十字架もとに罪人を招く、今日】

「キリストは、わたしたちを同様に慰める真実のノア（慰め）であり、ご自身の苦しみによってすでに箱舟を備え、信仰によってそこに入るようにと招いておられる。キリストの絶えざる忍耐の日に、キリストの声に聞き従いましょう」（マシュー・ヘンリー『聖書註解要約版』）と奨励されるように、今日、救いの箱舟であるキリストと教会に、人々を招くことこそ、主の十字架を知る者の使命である。　（宮武輝彦）

《参照聖句》　マタイによる福音書２４章２６～３９節、ルカによる福音書１７章２６，２７節、ペトロの手紙一３章１８～２２節、ペトロの手紙二２章５節、３章５，６節、ヘブライ人への手紙１１章７節

《教理問答》　子どもと親のカテキズム　問１９～２５、２６～２８、５０～５２、７５、９１、ウェストミンスター小教理問答　問３９、８４、９８、ハイデルベルク信仰問答　問１～１１、５２、６９～７１

２月９日　　創世記６章１節～７章２４節　　【説教展開例】

ノアの箱舟

◇…… 単元のねらい ……◇

ノアの箱舟の出来事は、「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられ」（テモテへの手紙一２章４節）ることと矛盾しないことを信じて伝えたい。それは、罪人の救いは、ただ、神の憐れみによることであって、唯一の救い主イエス・キリストを伝えることにほかならない。ただ一つの救いは、イエス・キリストであり、救いの箱舟であるキリスと教会を信じて、子どもたちに、滅びへの関心よりも、命の光と救いの恵みという「神の真理」を、良き配慮と慰めの中で伝えたい。

「ノアの箱舟は、イエスさまの十字架」

みなさんは、今、世界に何人の人々が住んでいるか知っていますか？　今日は、私たちの教会学校は、○○人のお友だちがいっしょに礼拝していますね。その何倍、何千倍、何万倍、もの人たちが、世界には住んでいます。その数は70億人とも、75億人とも言われます。

ノアさんが生きていた時代、その周りに何人の人がいたかはわかりませんが、神さまは、「わたしは人を創造したが、これを地上がのうぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」（７節）と言われました。

これは、神さまの大変な決意です。それは、もともと、神さまは、すべての世界をおつくりになったとき、それをとても良いものとしてお造りになり、最後に、神さまの栄光のために、神さまのかたちにかたどって人間を造られたからです。

つまり、人間を地上からぬぐい去ることは、神さまがこの世界を造られた目的がなくなってしまうことと同じください、悲しいことなのです。

それでは、どうして、神さまはこのような悲しい決意をされたのでしょうか。それは、「地上に人の悪が増し、常に悪いことばりを心に思い測っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を傷められた」（５，６節）からです。

そうですね。神さまは、人間が悪いから滅ぼそうとされたというよりも、神さまが人間を造られた目的に適わなくなったことを悲しんでおられるのです。

それでは、人間はもともと何のために造られたのでしょうか。それは、神さまのすばらしさをそのまま生活に映し出すためです。

神さまのすばらしさは、神さまが造られた自然の中に十分すぎるほど現れています。それを喜び、神さまをほめたたえることが、人間にとって最もしあわせなことなのです。

けれども、神さまが、人間の悪を悲しまれたとき、人間は自分の好みのままに生活し、神さまを忘れていました。それは、お

祈りや礼拝を忘れた生活でした。

「しかし、ノア（さん）は主（なる神さま）の好意を得た」（8節）のです。それは、主なる神さまがノアをえこひいきされたというよりも、ノアの心を見られて、恵みを与えられたということです。それは、「わたしはあなたと契約を立てる」（18節）と同じ意味です。

このノアさんに、神さまは、人間だけでなく、家畜も、這うものも、空の鳥も、地上がかぬぐい去ることを告げられ、「ゴフェルの木」で箱舟を造って、「内側にも外側にもタールを塗りなさい」と命じられます（14節）。

そして、箱舟の寸法や、三階建てとすることや、戸口の位置まで、細かく命じられました。

それはとても大きな箱舟で、ノアとその家族、そして、すべての動物、生き物、空の鳥から、雄と雌を連れて入るように命じられたのです。

「ノア（さん）は、すべて神（さま）が命じられたとおりに果たした」（22節）のです。

わたしたちはよく集中豪雨の被害を聞いたり、経験したこともあるかもしれません。何日も大雨が降ると、身の危険を感じるほど怖いものです。

ノアさんが、600歳のとき、神さまは、天の窓を開いて、雨を降らせられましたが、それは、四十日四十夜続きました。

創世記7章12節には、「雨が四十日四十夜地上に降り続いたが、まさにこの日、ノアも、息子のセム、ハム、ヤフェト、ノアの妻、この三人の息子たちも、箱舟に入った。彼らと共にそれぞれの獣、それぞれの家畜、それぞれの地を這うもの、それぞれの鳥、小鳥や翼あるものすべて、命の霊をもつ肉なるものは、二つずつノアのものとに来て箱舟に入った。」と書かれています。

じつは、ノアさんが、箱舟を作り始めたときは、500歳でした。ですから、ノアさんは、100年かけて、箱舟を造り上げたことになります。

その間、ノアさんは箱舟を造っていただけはありませんでした。

ペトロの手紙二2章5節には、「また、神（さま）は昔の人々を容赦しないで、不信心な者たちの世界に洪水を引き起こし、義を説いていたノアたち八人を保護なさった」と書いてあります。

「義」とは神さまの恵みの御業のことであり、また、神さまの約束のことです。

きっと、多くの人々は、雨の降らない大地にノアさんがコツコツを大きな箱舟を作り始めたのを見て、馬鹿にしたのではないでしょうか。

でも、ノアさんは、「義」を説いたんですね。それは、神さまに命じられて、この箱舟を造っていること、そして、神さまが地上に洪水をもたらす日が来ることを伝えたのだと思います。

けれども、だれ一人として、聞いても信じることはありませんでした。

イエスさまは、「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」（マタイによる福音書24章35節）とおっしゃいました。

それは、イエスさまも、永遠の神の御子としして、ノアの洪水を知っておられた事を意味します。

そして、「人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。

そして、洪水が襲って来て一人残らずさらうまで、何も気づかなかった。人の子が来る場合も、このようである」（マタイによる福音書24章37〜39節）と人々に警告されました。

今、わたしたちにとって、ノアの箱舟とは、わたしたちの罪のために十字架にかけられ、三日目に復活された、イエスさまのもとに来ることです。

それは、ノアの家族八人が箱舟に入って洪水から救われたように、わたしたちも、ただ、イエスさまのもとに来て罪から救われることです。

みなさんも、もしかしたら、学校で、教会に通っている人は、クラスで一人だけかもしれません。でも、聖書は、神さまが、イエスさまの救いのもとに招き、選んだ人だけが救われると教えています。

神さまは、世界のすべての人が救われることを望んでおられるからこそ、ノアさんが100年間、神さまの約束を人びとに伝えたように、わたしたちも、イエスさまの十字架を人びとに伝えるように導いておられます。

イエスさまがもう一度来られるとき、ノアさんが箱舟に入って救われたように、一人でも多くの人たちが、教会に導かれるように祈りましょう。

そして、イエスさまがもう一度来られる日を待ち望みましょう。　そして、神さまの約束を信じて、まだ見ていない事柄」（ヘブライ人への手紙11章７節）の実現を信じて、本当の救いと神の恵みを伝えましょう。

（宮武輝彦）

《今週の暗唱聖句》

この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通って救われました。

（ペトロの手紙一　３章２０節）

２月９日　　創世記６章１節～７章２４節　　【幼稚科】

ノアの箱舟

〈ねらい〉

洪水による滅びの悲惨よりも、神に従うノアの家族と清い動物も清くない動物も共に生き延び、子孫が生き続ける神の約束の恵みの方に焦点をあてる。

１〔工作〕

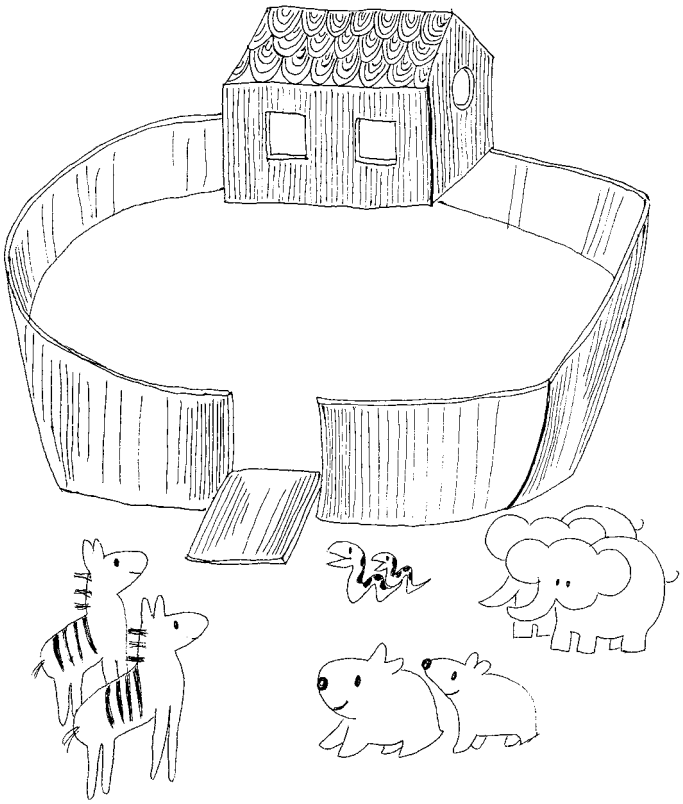
準備：画用紙か模造紙に大きく箱舟を描いておく。ノアとノアの家族、動物たち（できればオスとメスの二つ）を子どもたちに描いてもらう。色づけも可。描き終わったら、それらを切り抜く。

２〔ロールプレイ〕

箱舟に乗り入れるときを想定する。切り抜いた絵を手にして、その絵の動物になりきって、ひとことセリフを言いながら乗船する。

例えば、「わたしたちも入れてね」、
「ごめんくださーい！」、
「ぼくたち、とっても大きいけど、乗れるかな」、
「みんな、なかよくしよう！」
など。

〈はこぶねの絵とどうぶつの絵のヒント〉



２月９日　　創世記６章１節～７章２４節　　【小学科上級・中学科】

ノアの箱舟

１．創世記６：１～22を読みましょう。

①ノアはどんな人ですか。他の人はノアとどう違いましたか。

②ノアの時の世界は、創造のときと比べてどう違いますか。なぜこんな違いが生じたのでしょうか。

③神さまはノアに何をなさると言われましたか。またそれはなぜですか。

④神さまはノアにどんな指示を与えましたか。ノアはどうしましたか。

２．創世記７：１～24を読みましょう。

①ノアたちが箱舟に入った後、何が起こりましたか。このことにはどんな意味があると思いますか。

②大洪水について、詳しく説明してみましょう。世の中はどんな状態になり、また生き残ったのは誰ですか。